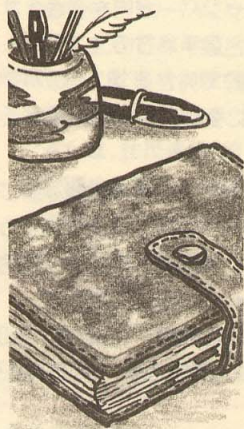


らい 来ぶらり 24

カード・カード・カード

事務長 佐野 眞



司書の仕事は一日中カードとの付き合いである。コンピューター化が進めば、これもほとんどなくなるだろうが、まだ当分の縁は切れそうもない。図書館のカードは資料の記録・検索の道具として、蔵書目録を作るためのひとつの形態であるが、話はそのカードとは違い、またクレジットカードでもない。個人レベルで情報を記録したり、アイデアをメモしたりして、それをもとに新たな発想のきっかけをつかもうとする、あの情報カードである。このカードの利用も今ではずいぶん普及して、別に珍しいものではなく、デパートにも専用のコーナーがある。近ごろはやりの「システム手帳」も、カード思想に基づいているわけだから、外した用紙（リフィル）をカードとしてうまく整理しなければ、この手帳を使う意味が薄れてしまう。

アメリカ経営学がもてはやされていたころ、帰国してきたひとたちが、話の途中ポケットからカードを気軽に取り出して、メモをしている経営者たちの姿を紹介していた。すでに、カードを使ってメモを取ることが日常化していたのである。

幸田露伴の「番茶会談」のなかに、読書会に参加している学生の発言として、カード利用のこと

が出てくる。この文章は明治44年に書かれたものだ。もっと古くは、おそらく和紙の短冊を使ったに違いないから、並べた紙が飛ばないように、どんなに暑い日でも窓を開けなかった、というようなエピソードがいくつか伝わっている。

この種のカードが今日のように普及したのは、梅棹忠夫氏の『知的生産の技術』や、KJ法で知られる川喜田二郎氏の『発想法』あたりからであろう。梅棹氏は断片的なアイデアをまとめあげる方法を「コザネ法」という名で紹介した。これは名刺サイズのメモ・カードである。映画評論家の荻昌弘氏はこの愛用者で、携帯するのはもちろん家中あちこちに用意しておいて、何でも書き付けては整理箱に仕分けしていたそうである。

上掲の2書とも、データの記録用にB6判カードの利用を紹介したので、今日でもこれが京大カードの名で売られている。B6は規格サイズだから「京大」と名付けるいわれはないが、桑原武夫氏を中心として数々の成果をあげた京大人文科学研究所の共同研究のことが語られるとき、きまってB6カードの共同利用の経験談がでてくることも、その理由のひとつであろう。川喜田氏もフィールドワークから得た膨大なデータをカード化して共同利用する方法を、細かく説明している。

カードにはサイズがいろいろあって、図書館では5×3（インチ）が標準だ。ドル紙幣と同じというものもある。はやりの「システム手帳」のサイズは欧米人が毎週日曜日に手にする聖書から来ているらしい。私の日常感覚にはどうもしっくり来ないのだが、このサイズの本も現れている。



① 野球体育博物館

いろいろな話題で揺れた昨年の野球界ですが、中でも注目の的だったのがBIG EGGこと東京ドーム。1959年にオープンした野球体育博物館も昨年そのドーム内に移り、野球誕生時から現在に至るまでの文献、資料、写真等を展示しています。明るいグレーと白で統一された館内は、柔らかな照明に照らされて落ち着いた雰囲気です。

この博物館、通称を野球殿堂と言ひ、正力松太郎から昨年選出された長島、別当、西本、金田まで、野球の発展に貢献した92氏のレリーフがズラリと掲げられています。「殿堂」と言うといかめしい感じがしますが、このコーナーは、球場に沿って緩やかにカーブした壁面とレリーフの木の色合いが優しい印象を与えてくれます。

そのほか館内では「プロ野球」「野球の歴史」「野球の科学」のテーマごとに展示が行われています。私が訪ねた時にはまだ、「プロ野球TODAY」のコーナーに引退した山田投手や掛布選手、トレード



野球の歴史が一目でわかるレリーフの数々

された門田選手のユニフォームがあり、心なしか寂しげに見えました。「野球の歴史」のコーナーでは、baseballを「打球鬼ごっこ」と訳した『西洋戶外遊戯法』(1885年刊)や、そで口のほころびたベープ・ルースのジャンパーが目を引きまゝ。ほかにも、球史に残る名選手たちのユニフォームや用具類、3D(立体映像)で見せるプレーの科学など盛りだくさん、とくに野球ファンは興奮すること間違いなしです。

外に出てBIG EGGを見上げる不思議な感じ。ここではどんな歴史がつくられていくのでしょうか。〔文京区後楽1-3-61 ☎03(811)3600 開館時間：10:00~18:15(11月~3月は17:00まで) 休館日：月曜(春・夏休み中は開館) 入館料：300円〕(国文学科3年 浅田由起子)

続・スペースを求めて —— 図書館書庫事情

昨年9月、書庫の洋書約1万冊を文学部地下書庫へ搬入し、その空いた部分を利用して、書庫内の図書の大移動を実施した。職員・アルバイト合せて20名近くが2週間かけてのしんどい作業であった。

文学部書庫は昭和56年、旧分類図書など約2万冊分をすでに借用している。本誌第17号で狭い書庫内のやりくりを(いたちごっこ)にたとえたが、それから1年もしないのに書架がぎしぎしになり、数冊の新着図書も入り切らない箇所が出始めた。年度末に未処理の寄贈書を外へ出し、壁面に低い書架を入れたりしてかなりゆとりを作った気ではいたが、連休明けにまた方々が詰まり始めた。少しは

床に積んでもという声もあるが、教員・院生の入庫もあるし、何よりも現場の係が困る。そんな訳で年度途中、文学部に追加借用を急に頼み込まざるを得なかった。書庫の窮状は数年前から問題にされながら、根本的な対策をとれずにいる。貸倉庫への委託なども利用の不便さから踏み切れない。

9月の大移動は各層の上下入れ替えを含め20万冊近い図書を動かした訳だが、事前の準備の手間など考えると、1日でも長持ちするようにと祈るしかない。新着図書が運ばれて来るのを目にする一瞬、年がいきもなく胸がキューンとうづくこのごろである。

古くて見栄えのしない建物はさておき、新着図書が入り切らないほど詰まった書庫のやりくりのために利用者サービスを犠牲にするのはそれこそ詰まらない話である。明るく広い開架書架の間を、宇宙空間のように遊泳できる日が来るのとは一体、いつのことだろうか？(運用課長 境 経夫)

昨年10月、第6回優秀会社史賞が決まった。『伊予鉄道百年史』等6点である。日本経営史研究所が社史の水準向上を目的に1978年に設定、以後隔年で実施している。「社史」の刊行は、すでに明治期に始まるが、戦後、創立100周年、50周年等、節目を迎える会社が多くなり、「社史ブーム」を経た後、現在も年間100点以上のペースで刊行されている。

制作者である会社は、自身の利益（社員教育、企業のPR）のために刊行するのであるが、刊行された社史は、読者のニーズに応じて読まれる。例えばビジネス小説類の下敷きとして、あるいは、住民運動・消費者運動における対会社交渉の必要性から読まれることもある。だが、資料として利用する最大の読者は、研究者・学生である。社史は「会社の歴史的情報を、内



企業史
—企業の歴史的情報書

部資料に基づいて客観的かつ体系的に会社の責任において提供するもの』（『会社史入門』）といわれているように、写真、統計、図表、年表等を取り入れて、経営業績、制度の変遷等を時代を追って記述しており、会社研究、経営史研究上の基礎的資料といえる。

会社の業種は、鉱業、建設、食品、繊維、印刷・出版、鉄鋼、銀行、百貨店、鉄道等多種にわたっている。歴史的情報が盛られている社史はまた、工業史、交通史、金融史、流通史、文化史等を研究する上での有効な資料でもある。

社史はほとんど市販されないので、図書館で利用するか、古書店で求めなければならない。法経図書室では、社史の収集に努め、特定の番号を与え、1カ所に集めている。その番号は、490-CKである。

（法経図書室 久保田安子）

どうぞ図書館へ！

カウンターアルバイトが送るラブコール

❶カウンターでアルバイトを始めて、もうすぐ2年になります。自分が短大生の時にはあまり図書館を利用しませんでした。今になって後悔しています。親切に相談にのってくれる参考係、きびきびとした対応をしてくれる閲覧係、膨大な資料の存在をあのころ知っていたら、私のレポートももっと良い成績だったのではと思うのです。カードを引いたり、本の請求など煩雑に感じる事もありますが、分からない事は何でも聞いて、図書館を大いに利用してください。（谷合）

❷スヌーピーのエプロンを掛けているのが私です。1階の開架図書室には独身男性2人が寂しくいます。だから寒いのです。冬の開架図書室が、図書館の極地と呼ばれるのもうなずけます。それなのに2階は楽園・美女の宝庫、当然春のごとく暖か

い空気に包まれています。このような状態では人格形成に異常をきたしてしまいます。

学生諸君、私は哀願します。ぜひ開架図書室を利用して下さい。冷やかしてもかまいません。そうすれば自然と暖かくなるでしょう。（阿久根）

❸「図書館にはどうせおもしろい本がないから」、「自分で書庫に入って本を見る事が出来ないから」と1度も本を借りた事のない皆さんへ。あき時間に図書館にいらして、どうぞゆっくり開架図書室や参考室の本を眺めてください。興味のある分野の分類カードを引いてみてください。マンガも入っています。図書の購入希望も是非出してください。自分で買わずにすむかもしれません。いろいろ請求して利用の仕方が上手になれば、図書館はきっとすてきな場所になると思います。（小西）

参考室あれこれ

翻訳書を探すのはなかなかやっかいなものです。翻訳書を個々の著者名から探すには、単行書として出版されていれば、図書館の目録カードを著者名で引くと探し出せる可能性もありますが、〇〇文学全集のなかにもみ収められているものなどは、著者名からは探せないということがあります。一方、翻訳書を書名から探すとなりますと、訳者によって書名が異なる場合があって、とまどうことがあります。James Joyce の『Dubliners』が『ダブリン市井事』『ダブリン市民』『ダブリン人』『ダブリンの人々』と異なっていたり、Theodore Dreiser の『An American tragedy』が『アメリカの悲劇』『陽のあたる場所』のように大きく異なることもあります。また、原著者が改訂版を出した時に、書名を全く変えて

しまうこともあります。1947年にHarvard Univ. Pressから出版されたHerschel Clay Bakerの『The dignity of man』が1961年版では『The image of man』と変わっていました。これらが翻訳されていたらどうなるのでしょうか？

最近では『翻訳図書目録』という本が日外アソシエーツから出ています。これは原著者名・原書名・翻訳書名それぞれから探すことができます。累積版となっていますから『出版年鑑』とは違い各年ごとにみていく手間が省けます。また、同社から『世界文学全集・作家名総覧』も出ています。これでは、どの作家のどの作品が何という文学全集の中に収められているかを、知ることができます。こういった書誌類の出現で“本を探す”方法も多様化しています。ですから、その分こういうツールについての知識を要求されるわけです。(参考係 甲斐静子)

アルバイト遍歴

学生時代、食べるためのアルバイトをいろいろやった。一応学生だったから、仕事を選択するに当たっては自分なりの原則を立てていた。それは単純なもので、①肉体的疲労を伴わないもの ②拘束時間が決まっても内実は自由(いいかげん)なもの ③そこそこの収入があるもの…等々。こんなながままな条件でも、怠け者にはそれにふさわしい仕事が結構あって、困る事はまずなかったように思う。むしろ、条件が整い過ぎて長続きしなかったものがあつたぐらいだ。例えば、アドバルーンアドバルーンの監視人。これは朝、指定されたビルの屋上に“出勤”し、アドバルーンを上げると、夕方までそれを見ている以外何もしなくてよかった。3日目で退屈し、1週間でわびしくなってやめた。図書館の仕事も、原則に反してやった事がある。1日中日の当たらない事務室で横文字のカードを並べていたら、ノイローゼになりそうノイローゼで逃げ出した。この仕事が、今では生業なりかになっているのだから、皮肉である。(洋書係 中山高二)

お知らせ

〇返却期限、忘れていませんか？

冬休み長期貸出し図書の返却期限は借りた日によって異なります。返却日に遅れないよう、利用証の日付を確認してください。

〇コピーサービス

試験期が近づいて図書館の込み合う季節です。コピー機の利用も混雑が予想されます。独占せずお互いにゆずり合いましょう。図書館でコピーで

きるのは本学所蔵の図書・雑誌のみで、ノート類のコピーはできません。両替は図書館では致しません。

〇コンピューター関係の資料が増えました。

今まで計算機センターで所蔵していたコンピューター関係の図書、約430冊が図書館に移管されました。ご利用ください。

〇次号「来ぶらり」第25号は4月1日発行予定です。

来ぶらり No.24 1989年1月1日発行

発行責任者：森永毅彦 編集委員：北村 誠 工藤晶子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221